

緊急シンポジウム

米朝核危機と日本 平和的解決を求めて

北朝鮮による核／ミサイル開発は、核兵器廃止を求める国際世論に逆行し、東アジアの平和と安定を脅かしている。この問題の平和的解決を真剣に検討しなければならない。

日本政府が、アメリカ・トランプ政権とともに唱える「圧力強化」は、真に有効な解決策であるのか。逆に緊張を悪化させる恐れはないのか。本当に対話は無意味なのか。他に有効な選択肢があるのではないか——学術的知見をもとに、平和的解決への選択肢を模索する。

・あいさつ 河野洋平（元衆議院議長／元外務大臣）

・問題提起 遠藤誠治（成蹊大学教授）

「問われる日本の選択」 柳沢協二（元内閣官房副長官補）

「北朝鮮の論理と現状」 平井久志（共同通信客員論説委員）

「韓国はどう考えるか」 全在晟（ソウル大学教授）

・総合討論 李鍾元（早稲田大学教授／司会）

美根慶樹（元日朝国交正常化交渉政府代表）

木宮正史（東京大学教授）

朱建栄（東洋学園大学）

尾形聡彦（朝日新聞オピニオン編集部次長兼機動特派員）

和田春樹（東京大学名誉教授）ほか

2017年

11月4日（土）

13時開会（12時30分開場／17時閉会予定）

東京大学駒場 I キャンパス
18号館ホール

参加無料

※事前予約不要（直接会場にお越しください）
※参加多数により会場定員を越えた場合には
入場できない場合がございます。

主催：「緊急シンポジウム 米朝核危機と日本」実行委員会（東京大学韓国学研究所、早稲田大学韓国学研究所）

後援：岩波書店、新外交イニシアティブ 協力：庭野平和財団 問い合わせ：event@iwanami.co.jp